

看護師教育に新設した統合分野の考え方について

▶ **統合分野**では、基礎分野から専門分野Ⅱまでに学習した内容を臨床実践で活用するため、一般病床あるいは在宅医療等の現場における**臨床の実務に近い環境の中で、看護を提供する方法を学ぶ**内容として位置づけた。

看護の統合と実践（仮称）

卒業後、臨床現場にスムーズに適応することを目的とし、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としての**メンバーシップ及びリーダーシップを理解**すること、**看護をマネジメント**できる基礎的能力を身につけること、**医療安全の基礎的知識**を習得すること、**災害直後から支援できる看護**の基礎的知識を理解すること、国際社会において、広い視野に基づき看護師として**諸外国との協力を考える**ことができるといった内容を含む。

臨地実習では、患者1人を対象とするのではなく、**複数の患者を受け持つ実習や、一勤務帯を通じた実習**を行い、臨床実践の中で必要な基礎的知識と技術を総合的に経験することとした。

また、3年間の総括として、**看護技術の最終的な評価**を行う内容とした。

在宅看護論

在宅看護論は、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、**在宅という環境で看護を提供する方法**を学ぶ内容とした。また、在宅での終末期を支援する看護技術も含め、在宅での基本的な看護技術を理解し、他職種と協働する中での看護の役割を理解することも含めた。